

# 羅府新郎

(6) 2016年(平成28年) 5月12日(木曜日)

先日、メジャーリーグの野球の試合を見にアナハイム球場に足を運びました。華やかな雰囲気の中、試合前の国歌斉唱となつた際、中身は日本人の私がアメリカ人の観衆と一緒に起立し、自然に帽子を取り左胸に当てながら『星条旗よ永遠なれ』を口ずさむことができました。その時、遂にこの国の一員となつたのかと、という感慨と共に、今日に至るまでの人生の道のりが頭をよぎったのです。当地ロサンゼルスに渡つてからはや35年という年月が経ちました。子供の頃から憧れの地に到着した日の心の高ぶりが、昨日のように思い出されます。

性として生まれたのかが不思議に思える瞬間があるものであります。私自身が望んだことでも、努力した結果でもない、まったく同様に他の人種の周りの人間も、彼らの意志とはまったく関係のない次元でそ

国籍は天国にあり——  
南加キリスト教教会連合

マツクス山口

性として生まれたのかが不思議に思える瞬間があるもので、私自身が望んだことで、努力した結果でもない、まったく同様に他の人種の周りの人間も、彼らの意志とはまったく関係のない次元でそのままに、ずいぶん老けたなど感じます。もちろん、自分自身にも当てはまることがあります。もちろん、それは自分で自身でもあります。客観的に言ふと、学生時代の友人に久しぶりに会つたり、写真を見た時に、ずいぶん老けたなど感じます。もちろん、それは自分自身にも当てはまります。客観的に言ふと、それが自分の人生であり、度この人生は終わる」ことを知らないままだったなら、もしあればこそあることを、知ることができたことで、謎が解かれました。

りません。出張が多かった駐在員時代、ホテルの部屋に必ず置かれていた聖書が目に入つたものです。何度か手にするとはあっても、ついぞ読む機会がなかつた。それが今や聖書から最も多く読む書物となり、日曜には教会に通う生活がすっかり当たり前になつてしましました。渡米前には想像すらできなかつたことです。

日本の生まれ故郷に帰省する度にほつとします。子供の頃見慣れた山々が変わらぬ姿で迎えてくれます。そして口元でサンゼルスに戻り、爽やかな空気に触れ、澄んだ青空を目指されます。何でもアメリカが良く思えた頃は過ぎ、今はどちらの長所も短所も受け入れ

ことができるようになります。  
アメリカという国で家族も  
仕事も与えられました。日  
本人としてのアイデンティ  
ティーを保ちながら、これか  
らも当地にて暮らして行くつ  
もりです。

しかしよく考えてみると、  
この世の国籍はアメリカであ  
るうが、日本であるうが所詮  
は一時的なものです。魂の故  
郷である天国にこそ、本当の  
国籍があるという思いに最近  
至りました。いずれそこに戻  
れる目が楽しみです。私を当  
地に遣わされ全てを与えて下  
さった神の御心に沿った生き  
方をし、わが地上人生に悔い  
なしという思いで全うできた  
なら、何と幸いなことであろ  
うかと思います。

(オレンジコースト・フリー  
メソジスト教会)

アメリカという国で家族も仕事も与えられました。日本人としてのアイデンティティーを保ちながら、これらも当地にて暮らして行くつもりです。

しかしよく考えてみると、この世の国籍はアメリカであろうが、日本であろうが所詮は一時的なものです。魂の故郷である天国にこそ、本当の国籍があるという思いに最近至りました。いずれそこに戻れる日が楽しみです。私を当地に遣わされ全てを与えて下さった神の御心に沿つた生き方をし、わが地上人生に悔いなしという思いで全うできたなら、何と幸いなことであろうかと思います。

(オレンジコースト・フリー メソジスト教会)